



# 横浜陶芸友の会だより

第 182 号

令和 4 年

8 月 10 日発行

## 横浜陶芸友の会 会長 高橋光男



2020 年 1 月に国内で初めて新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されて以降、緊急事態制限、蔓延防止等重点措置で活動の規制がかかっていましたが、緊急事態制限が緩和されて今年 1 月に皆様のご協力により、「第 42 回 作品展」を開催することができましたことは、会員 皆様方のご協力の賜物と御礼申し上げます。

第 6 波・7 波と新型コロナウイルスの感染再拡大している中、最近は「ケンタウロス」の異名を持つ新たな変異型で感染者を増やしている現状で、これらによって「第 42 回作品展」後に「役員会」など開催できずに今に至っています。

「2021 年度決算」については、各部からの報告を受けて作成いたしました。コロナ禍で面談ができないため書面を送付して監査を受けることにいたしました。

「2022 年度予算」については「役員会」が開催できるまでは、暫定予算といたします。

また、「広報部長」吉良氏退会等に伴い組織の変更を行う予定です。

今年度は「専修教室」開催、「第 43 回作品展」開催及び 2 年後の「友の会創設 50 周年」に向けての準備作業も計画していきたいと思っておりますので会員の皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。

今年梅雨明けから高温の日々が続き、新型コロナウイルス感染症患者の増加している状況ですが体調管理には十分に留意して健康に過ごされて「横浜陶芸友の会活動」にご協力をお願い申し上げます。

## 第四十二回「作品展」事業報告

### 事業部

- （会期）令和 4 年 1 月 11 日（火）～ 16 日（日）
- （会場）「かなつくホール」3 階ギャラリー A
- （入場者数）271 名（前回 402 名）
- ※「かなつくホール」に提出した数字です
- （出展者数）15 名（19 年度 21 名）
- （出展作品数）205 点（前回 359 点）
- ※（専修部・特設コーナーの数を含む）

（養護学校） 参加 なし

（特設コーナー）課題「片口」 12 点

（来場者名簿 記入者数）

105 名（前回 186 名）

※今までは「芳名帳カード」に記入していただいていたましたが緊急事態時の連絡が取れるよう「来場者名簿」に変わりました。特に混乱はなつたようです。

（懇親会参加者数） 懇親会は中止

（友の会のあゆみ）

※「友の会」の歴史を掲示しました。

（その他）

### ① 搬入・搬出について

・ 会場設営は、密を避けるため 9 時 30 分より各部からの有志で行いました。

・ 受付は、11 時から行いましたが、特に混乱もなく終わりました。

・ 搬出は、全員で行い事故もなく、早く片付けができました。

### ② 会場当番について

・ 全日、居てくれた方がいて助かりました。来年度も、よろしくお願いいたします。

・ 出展者が少なくなり会場責任者の確保が難しくなっています。

今後どのようにしていくかが課題になってきました。

### ③ 感染予防対策

初めての対応でしたが皆様のご協力で事故もなく終了できました。ありがとうございました。

横 浜 陶 芸 友 の 会

2021 年度決算書・2022 年度予算書(案)

※会員の方は郵送でお届けした会報をご確認ください。

2021年度「総務部活動報告」

2021年（令和3年）

4月6日 「友の会たより」 発送

8月10日 「総会書面評決書等」 発送

8月26日 「友の会たより」

「会員名簿」 発送

10月23日 「役員会」 開催

11月11日 「友の会たより」

「第42回作品展のご案内」 発送

2022年（令和4年）

2月26日 「役員会中止」

3月末 2021年度 会計報告  
（コロナ蔓延等防止処置により）

2022年度「総務部活動予定」

2022年（令和4年）

8月 「友の会たより」 発送

10月 「役員会」

11月 「友の会たより」

「第43回作品展のご案内」 発送

2023年（令和5年）

2月 「役員会」

3月 「友の会たより」 発送

「役員会」「総会」など会場を確保していても新型コロナウイルスの急激な増加により、やむなく中止や延期になりました。

早く収束する事を願っています。

「秋期焼成会」について

専修部

「秋期焼成会」の日程が決まりましたのでお知らせいたします。

9月4日（日）受付 AM 10時集合

11日（日）釉掛け AM 10時開始

25日（日）作品引渡 AM 10時

場所は例年通り 関内「技能文化会館」

※昨年同様、釉薬を一新しましたのでこの機会に是非ご参加ください。

コロナ禍で会員皆様ともお会いできない日々が続いていますが、今年年に一度の

「焼成会」です。

楽しいひと時を過ごしましょう。

少しでも「焼成会」が楽しめるよう企画いたしましたので、是非ご参加くださるようお願いいたします。

尚、さらなるコロナの感染拡大により中止の可能性もありますので、その連絡の為、

参加希望者は FAXにて

「参加希望」と書いて「氏名・電話番号」

をお知らせください。

（中止の場合のみ連絡いたします）

申込先 (FAX)

FAXで送れない方は、

(電話)

なお、連絡は 8月31日 までに

お願いいたします。

事業部より

「第43回作品展」の日程

決定 しました

《期日》

令和5年1月10日（火）

から 1月15日（日）まで

《場所》

「かなつくホール」3F

ギャラリーA

《特設コーナー「課題」》

「マグカップ」

「思い出の作品」でも「新作」でも出展できます。

「作品への思い」のコメントも、

「出展一覧表」に一言添えて

いただくと楽しいですね。

※詳細は11月の会報に同封します

専修部 焼成コーナー

<一新した「釉薬」の紹介です>

- ・唐津ワラ白
- ・トルコマット
- ・青白貫入釉
- ・青織部
- ・ヒワ貫入釉
- ・飴釉
- ・斑唐津
- ・瀬戸(酸化)
- ・その他(黒天目、朱赤等)



①



②



③

④

⑤

⑥

専修部長の井上さんにお聞きしました

質問が色々来たのが、写真①と、②で「何をかけたのですか?」と、よく聞かれました。

①は「朝鮮唐津」と言われているものです。「飴釉」に「斑唐津」を口の所だけにポコッとかけて窯の中で流れることで「斑唐津」は有名な焼き物です。

②は「青織部」に同じように「斑唐津」をかけて焼いた物で白なのが「斑唐津」です。「斑唐津」は下地に釉薬が塗ってあると流れやすいのが特徴です。



③

③は見てわかるように「黒天目」に「朱赤」をかけた物です。



④

④の二つは地が黒御影に粉引(白化粧)を掛けてあります。(もう少し濃く掛けたかった)

それに「青白貫入」を掛けたものです。本当は白が強ければ青がきれいに出たが、これはこれで下地の黒が出て面白い。

これも下地は黒御影に白化粧を施したものに「ヒワ貫入(私が命名した)」を掛けたものです。



⑤

④に酸化銅を加えていったら⑤になった。薄く掛けたのが怪我の功名になった。



⑥は「ワラ白」に「青織部」をかけた物です。右手に持っているのが「青織部」です。これにコバルトが入っていたのでブルーが出てきました。



⑥



茅葺の駅舎



ベンチと人形



トウミ(選別機)

この一見茅葺屋根の農家かと思った作品は、実は福島県にある小さな電鉄の駅舎でした。周りのベンチや人形は寂しいので遊びで置いたそうです。それにしても「トウミ(選別機)」は見事に再現されていました。



「今年の作品」

逢坂 博樹

- ①「茅葺駅舎(湯野上温泉駅)」  
白土 鬼板 黄瀬戸
- ②「花活け」 信楽 穴窯自然釉
- ③「陶板(雪の浮御堂)」  
黒御影 白化粧土 白萩釉
- ④「片口」 特設コーナー  
信楽 穴窯自然釉

屋根の萱は黄瀬戸ですが、下地に鬼板を塗り屋根のてっぺんは鬼板をはがして濃淡をつけ木の感じを出しています。



乾くと縮むので一日で屋根も本体も作ったそうです。作った時は図面に則り段ボールで型を作り組み立ててから分解し、また図面に起こしてパパート作ったそうです。それでも、屋根の勾配が合わずに何度も調整し屋根も、ずれないように本体に枠を作り屋根の内側を補強しながら完成させたようです。(屋根を外し内部の補強の様子と本体の内部を見せてくれました。)



「陶板」の下地の粘土は「黒御影」で波の白は「白萩」。松や建物の白は白い粘土を貼り付け、その上にアルミナをかけ焼成し、雪を表現したそうです。



穴窯焼成の「花活け」は薪に「檜」が多かったそうですが灰の掛かり具合もよく器肌の艶もよく素晴らしい作品でした。

作品は「手び練り」で作ったそうです。

今回の作品が楽しみです。

# 陶陶さん

第 104 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより  
第 182 号  
(令和 4 年 8 月 10 日発行)  
(発行人) 横浜陶芸友の会  
会長 高橋 光男



③

- ①「スピーカーエンクロージャー」 信楽土 電気窯 織部 白萩釉
- ②「茶碗」 信楽土 電気窯 白萩釉 炭化
- ③「瓢(ひさご)」 信楽土 電気窯 白萩釉・一部織部釉



「今年」の作品

吉良 謙

最近は大いものは作っていません。作っても置き場所もないし。食器とか家でニーズがあるもの、くい呑みとかマグカップ、コップなど注文があつて作っています。お人形さんはお地藏さんくらいしか作っていません。

(作者の呟き)  
多分 10 年ぐらい前に作った作品です。最近では小さいものしか作っていませんので来年は気合を入れて作品展に挑戦したいです。



「如来常住」古信楽 穴窯

「今年」の作品

松崎 紀一

【編集後記】  
平成 21 年から 12 年間、広報部部長として活動されてこられた吉良さんが、昨年度をもって退会されました。(サビシイヨ)

長い間「横浜陶芸友の会」の屋台骨を支えてこられたことに感謝いたします。

豊富な知識と独特な感性の作品が見られなくなり、お話が聞かれなくなるのは本当に寂しい思いです。

一杯やりながら「陶芸談義」をしたくても人が集まれないご時世になりましたが、専修部の「焼成会」や「作品展」も開催される予定で準備に入っています。

コロナを怖がってばかりいても仕方がないので、お互い感染に注意を払いながら、機会を利用し、つかの間の趣味を楽しみましょう。

コロナの影響で会報の発行が遅く成りましたことをお詫び申し上げます。

今年度もご協力よろしくお願いたします。

(鍋島弘義)